ソフトバンクグループの知財戦略の深層

2023–2025年：前例なき大量出願と「AI特許オプション戦略」の解剖

調査基準日: 2026年11月1日 (対象: SoftBank Group Corp. 本体)

Gemini Notebook



圧倒的ボリュームの国内網

33,504件の国内出願
(2023-2025)



徹底した遅延選別

審査請求率
わずか6.9%



外国への外科手術的展開

PCT出願 117件
(全体比0.35%)

結論：SBGの知財活動は、無差別な権利化ではなく、生成AI時代の技術変化に適応するための「低コスト・高アップサイドのオプション・プール構築」である。

Gemini Notebook

ソフトバンクグループ株式会社

- 持株会社
- 投資・AI事業中心
- **本レポートの分析対象**

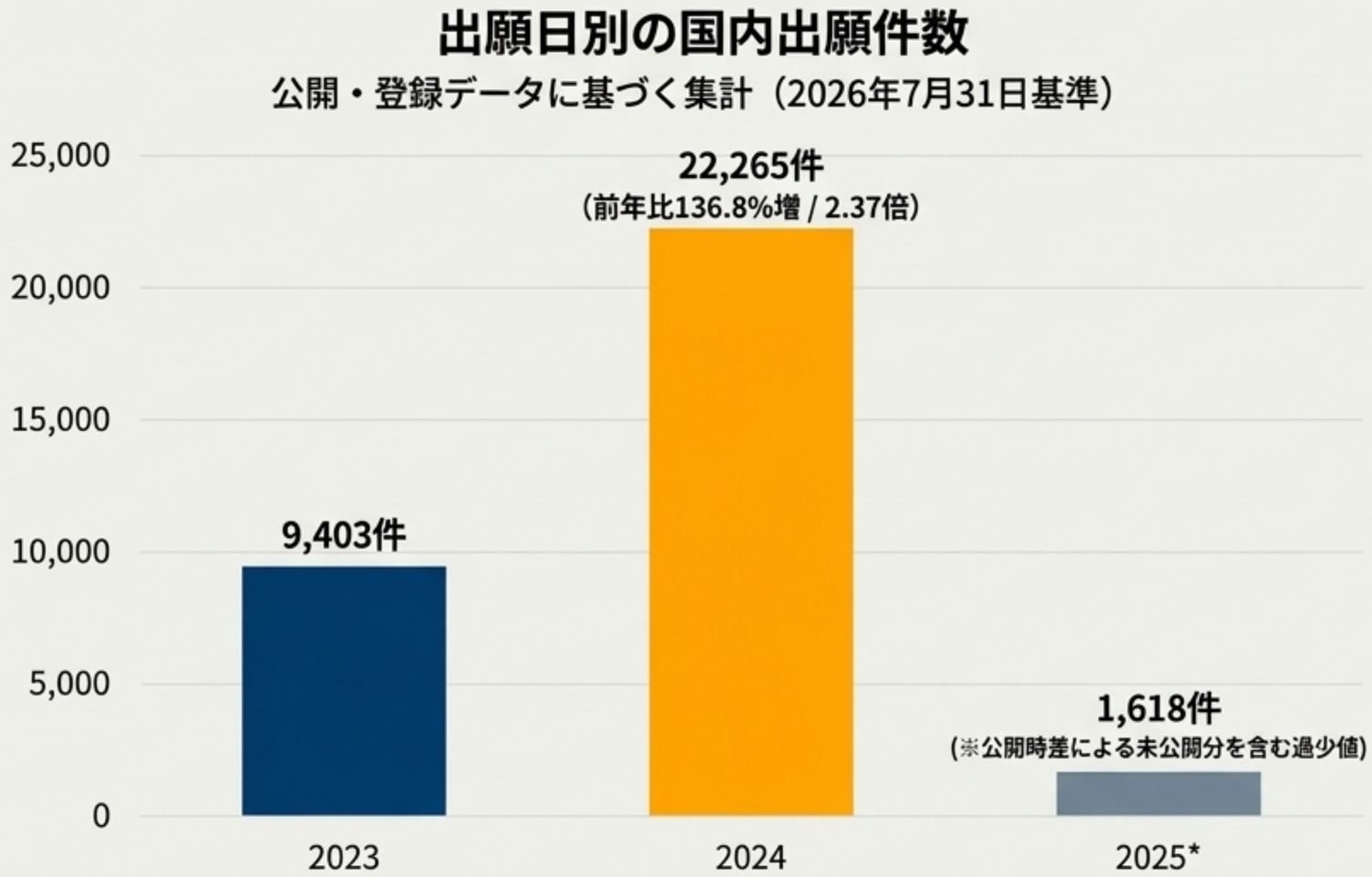
ソフトバンク株式会社

- 通信事業会社
- 特許庁「特許登録件数上位200社」掲載企業
- 別法人として本調査からは除外

SBG本体の実績を、通信事業会社やArm、SoftBank Roboticsなどの実績と混在させないことが、真の戦略を読み解く絶対条件。

Gemini Notebook

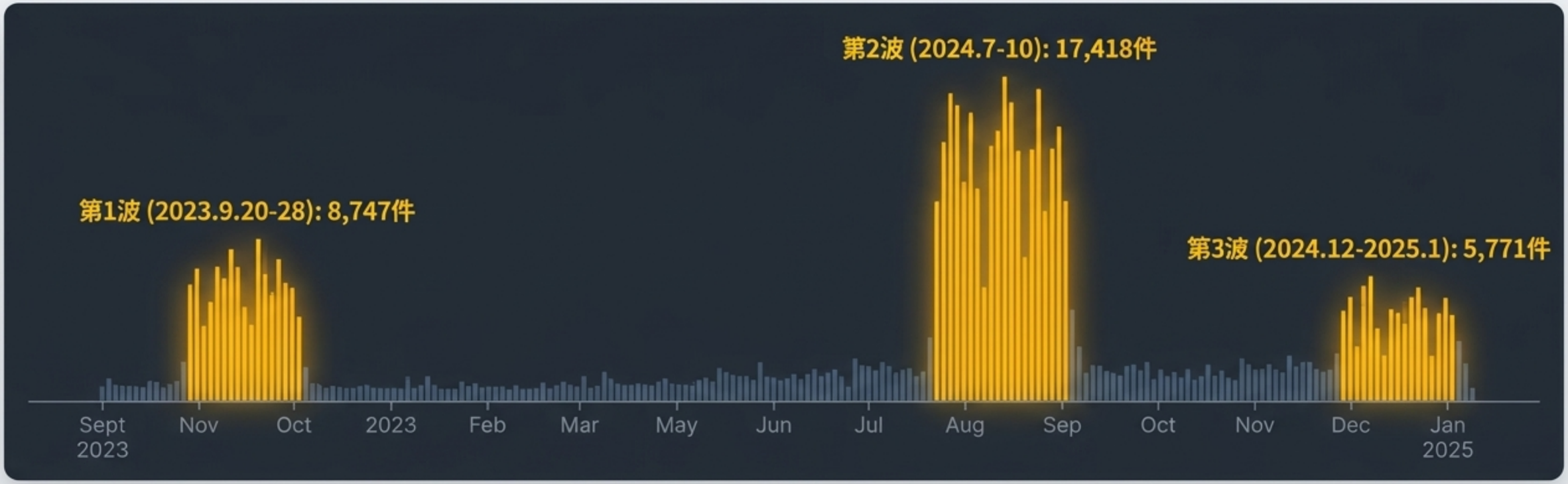
2.37倍の急増：前例のない出願ラッシュ



出願日ベースで集計すると、2024年に突如として特許出願の「壁」が出現。日本全体の当年フロー統計（出願約30万件）を単独で押し上げるほどのメガ・ボリューム。

Gemini Notebook

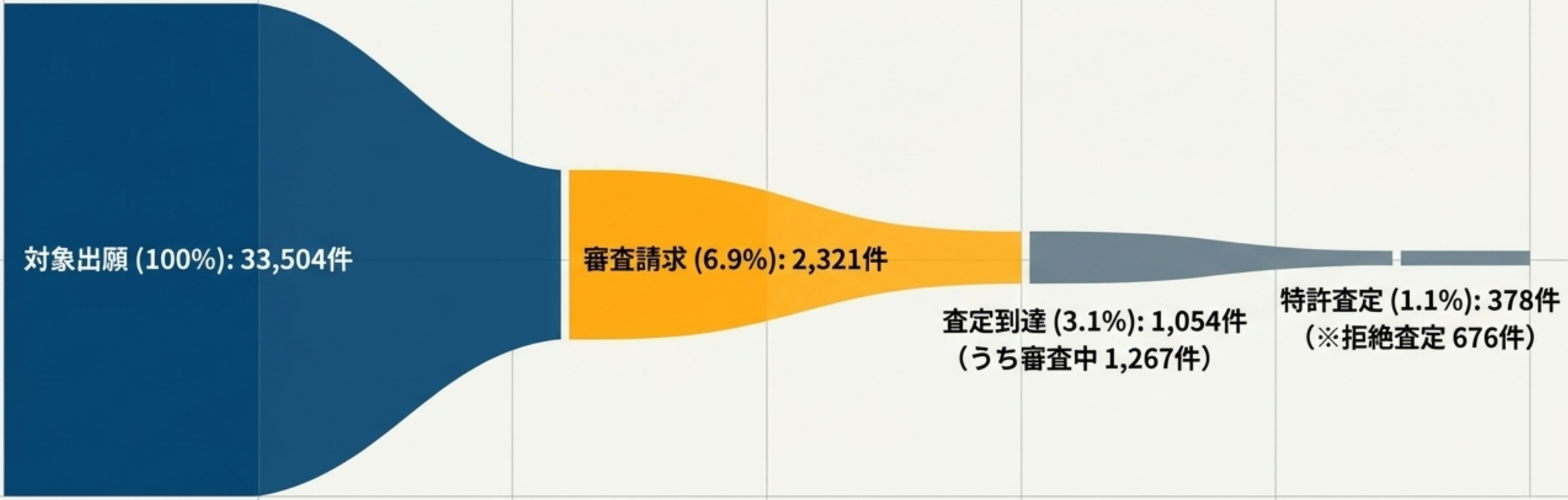
三つの集中期：1日1,000件超えの異常値



1日に1,000件を超えた日が「14日間」存在。
この14日だけで、総計18,331件（対象出願の過半数）を記録。

Gemini Notebook

審査請求率6.9%：権利化への「遅延選別」



大量出願群は、現時点で全件を直ちに権利化する意図はない。「とりあえず網を張り、後から価値を見極めて審査請求する」オプション確保の性格が極めて強い。

Gemini Notebook

出願波ごとの審査・権利化ステータス

第1波	第2波	第3波
2023年9月 8,747件	2024年7-10月 17,418件	2024年12月- 5,771件
0.05%（わずか4件）	8.7%（※一部日時に偏在）	0.2%（11件）

メガ出願日の実態

1日1,000件超えの14日間（計18,331件）に対し、
審査請求はわずか324件（1.8%）。特許査定は現時点でゼロ。

Analyst Note

第2波の請求率が高いように見えるが、2024年9月19日・20日の832件への集中を除くと、実質的な請求率は4.1%に留まる。

Gemini Notebook

0.35%の抽出：グローバル展開の外科手術的アプローチ

国内対象出願: 33,504件



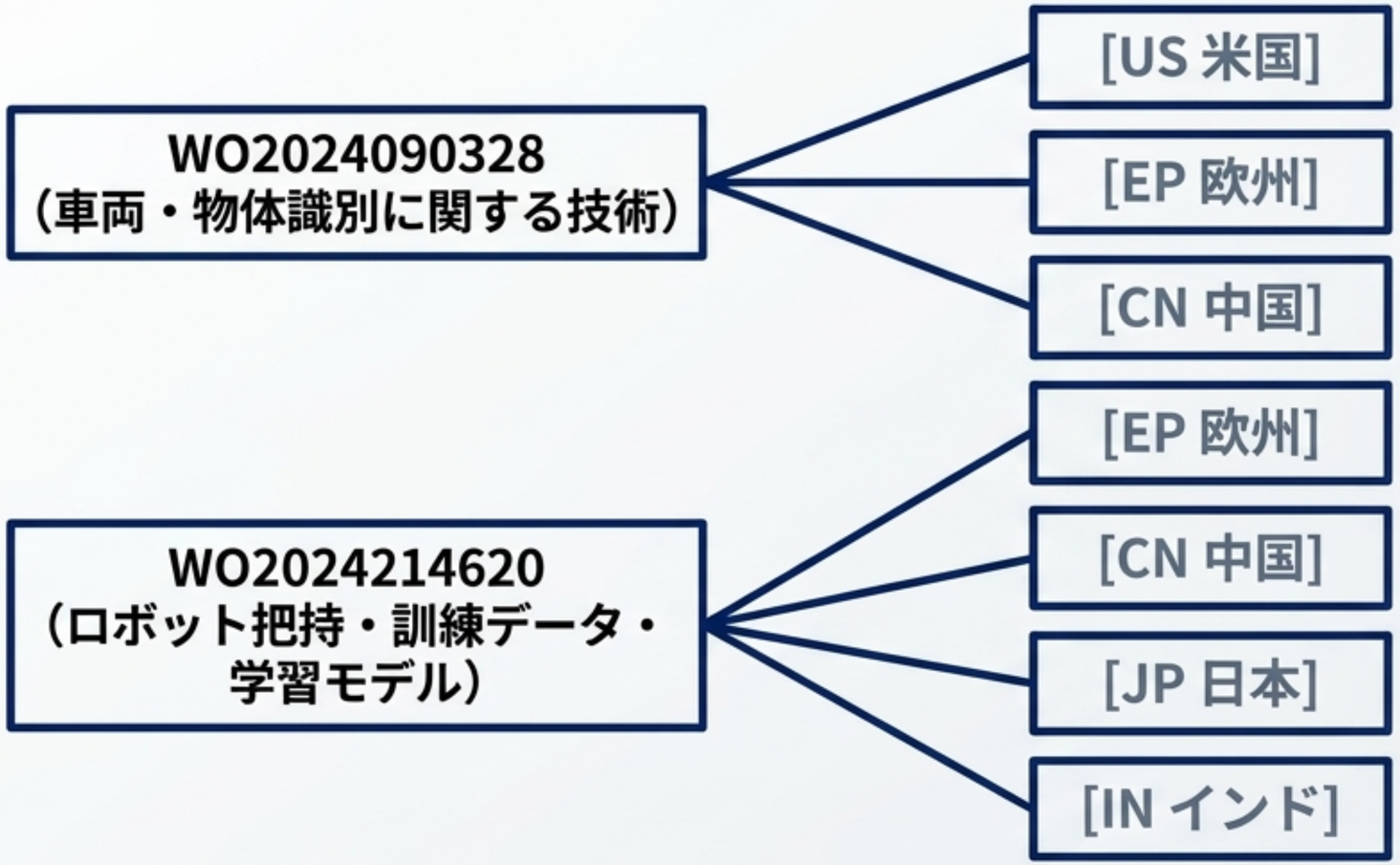
PCT国際出願: 117件
（全体比 0.35%）

米国公開文献: 133件
（※PCTから少なくとも33群が34の米国公開へ接続）

外国展開は「全面展開」ではない。国内の大量アイデア出願をそのまま横展開するのではなく、事業・市場的価値が極めて高い0.35%の案件のみをPCTへ通す、厳格なフィルターが存在する。

Gemini Notebook

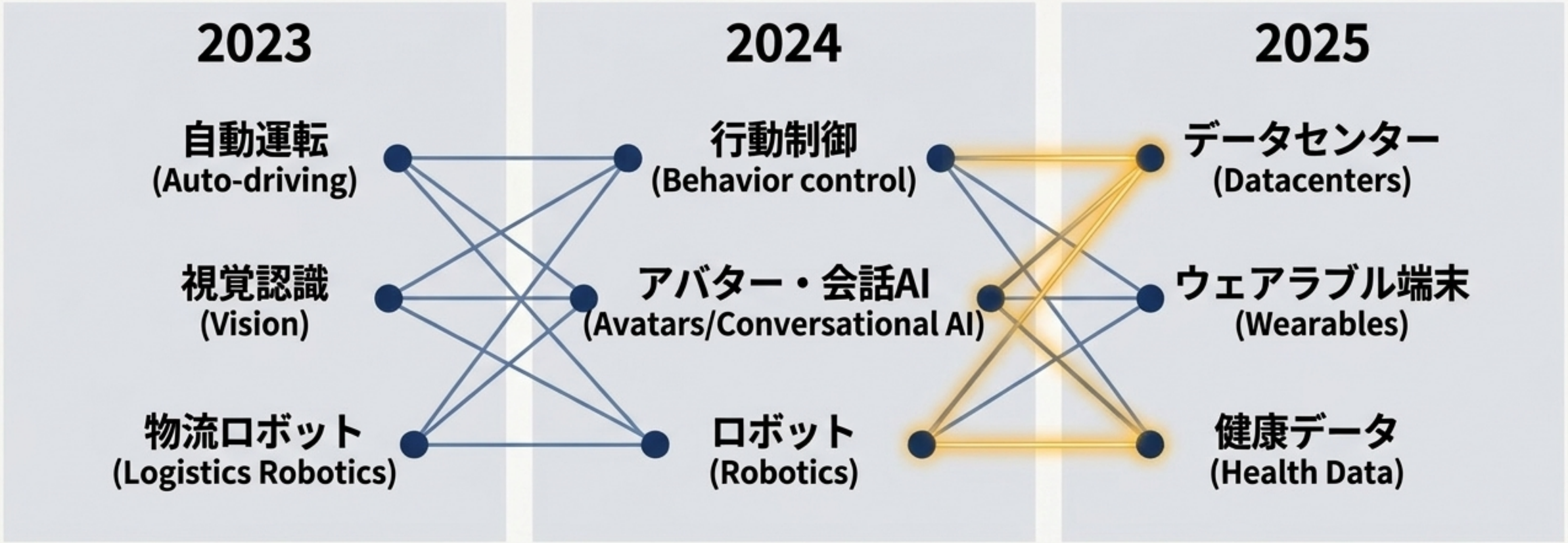
選択的PCT・各国移行の軌跡



※PCT出願は自動的な権利成立を意味しない。117件を単純に海外登録数とみなすことはできず、各国・地域での国内段階移行と審査が必須。

Gemini Notebook

テクノロジー・コア：抽出されたAIの軌跡



WIPO 2026年 生成AI特許分析

「SoftBank」名義の生成AI特許ファミリー 2,985件（2014-2025 公開）。そのほぼすべてが2023年出願・2025年公開群に集中。LLM、インフラ、ロボティクス領域との強い親和性を証明。

Gemini Notebook

大量出願を支える「アイデア収集エンジン」

持株会社主導の知財統括
（コーポレートガバナンス報告書に基づくグループ全体の戦略的連携・評価）

同社知財グループによる
即時の特許出願検討



学生向け「生成AI活用
アイデアコンテスト」
(2025年)

応募に伴う知財のSBGへの譲渡規定

AI由来のアイデアを、社内外から継続的かつシステマチックに知財候補へ取り込む
「アイデア工場」としての体制が公式情報からも読み取れる。

Gemini Notebook

アナリスト向け警告：SBG知財データを読む際の罠

⚠ 誤った解釈	✓ 正しい分析
出願年の誤認	
「2026年に出願が急増している」（公開公報発行年での集計）	通常公開まで1年半の時差があるため、「出願公開年」と「出願日年」を同列に比較してはいけない。真の急増は2023-2024年に発生。
権利化率の誤認	
「特許査定率 35.9%（1,054件中378件）」	出願全体（33,504件）の大多数が未審査であるため、現在査定に到達した一部のデータのみでポートフォリオ全体の登録成功率を測ることは不可能。
国際展開の誤認	
「PCT件数＝外国での特許登録数」	PCT出願は各国の国内段階移行への「チケット」に過ぎず、重複の扱いも異なる。国別の厳密な件数は、優先権や国内段階番号を用いた案件単位の追加監査が必須。

Gemini Notebook

今後の観察点（ウォッチリスト）



第1波の「審査請求期限」

2026年9月に第1波（8,747件）の審査期限が到来。データベースへの反映遅れ（約1..5ヶ月）を考慮し、秋以降にどれだけの追加請求が反映されるかが最大の焦点。



拒絶査定からの「復活戦」

現在審査請求済みのうち、拒絶査定となった676件。これらが補正や不服審判を通じて、どれだけ登録へ移行（リカバリー）するか。

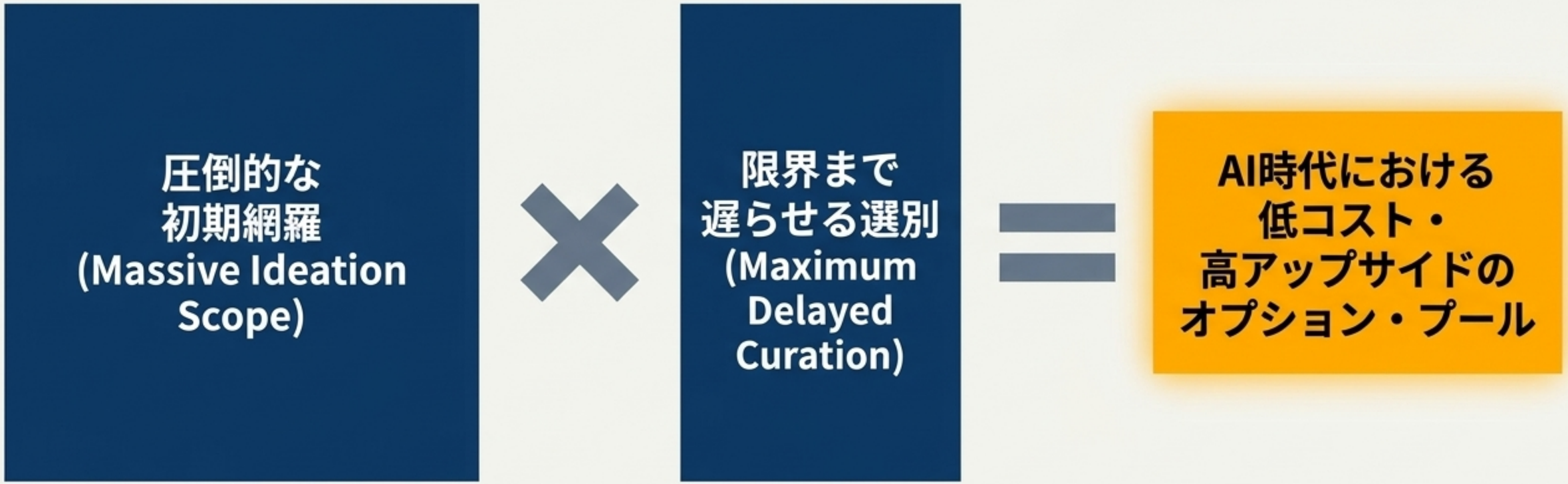


グローバルへの「着地」

100件台半ばのPCT出願のうち、米国・中国・欧州・インド等で「どの技術群」が実際に国内段階移行・登録まで進むか。真の技術選定基準がここで露わになる。

Gemini Notebook

SBG AI知財プレイブック（結論）



ソフトバンクグループの特許戦略は、従来型の「自社技術の防衛」ではない。
未知のAIユースケース爆発に備え、あらゆる事業可能性を先回りして網羅し、勝筋が見えた領域のを事後的にグローバル権利化する、極めて高度な「投資・オプション戦略」である。

Gemini Notebook